校長室だより～燦燦～ №２６

Ｇ君と自衛隊

2019.12.16

先日うれしいことがあった。毎朝、７時４５分から８時３０分まで、登校指導というよりは「あいさつ運動」を行っている。私にとっての朝のルーティンである。その前の７時３０分から７時４５分で、この「校長室だより～燦燦～」を本校のホームページにアップしている。これも最近ではルーティンとなった。

毎朝、私の隣には本校の先生方や生徒会役員が当番制で一緒に立ってくれている。先日は、生徒会役員の２年生Ｇ君が立っていた。彼が自衛隊志望であることは知っていた。私は彼に何気なく聞いてみた。「Ｇ君は、なんで自衛隊に入りたいの」すると、彼はすらすらと以下のように話してくれた。

「東日本大震災のときの自衛隊の方たちの活躍を見て、自分も人のために役に立ちたいと考えるようになりました。自分は、そのときソフトボールをやっていましたが、ソフトでもお世話になりました。自衛隊に対して、いろいろなことを言う人がいますが、必要なものだと思います。友達も自衛隊に入って銃を打ったりしたいんだろうと言いますが、そんなことはありません」

さらに、「震災のときは何年生だったの」「小学２年生のおわりでした」「だんだんといろいろな知識や情報を吸収するうちに、自衛隊以外のことに興味がいったりしなかったの」「一度中学生のときに陸上で腰を痛めて、自衛官になるのは無理かなと思ったときがありました。でも、けがをしても厳しいリハビリやトレーニングをしてがんばっているスポーツ選手を見て、自分もがんばってみようと思いました」「腰の方は今はどうなの」「今は痛みもなく大丈夫です」

彼はぶれない。骨のある若者だとは思っていたが、話してみてよかった。「この前の２日間のボランティアはどうだった」「夢に向かっていいきっかけになりました」梁川高校の校長にとって最高の言葉である。思わず涙が出そうになった。物事にはタイミングがある。この原稿を打ち込んでいると、私のところに一枚の丁寧な自筆による葉書が届いた。

梁川高校の皆様いかがお過ごしでしょうか。私事 台風十九号で被災、長年住み馴れた家屋を失うことになりました。その際には足元の悪い中 ボランティアで重い畳 汚れた家具など運び出し下さいました。感謝の念で一杯でした。おかげ様で順調に片付けは終わりました。その後仮住まいに移りようやく落ち着いた様に思われます。御礼状遅くなりましたこと深くお詫び申し上げます。処事情をお汲みとりお許しいただきたいと思っています。このたびは本当にありがとうございました。　乱筆乱文にて　引率の先生ありがとうございました。　　七十七才 女性より

どなたなのかお名前はわからない。だが、痛いほどお気持ちは伝わってくる。このようなお葉書は他にも届いている。ぜひ１２月１９日（木）第２学期終業式で生徒に紹介したいと思う。Ｇ君にこんなことも聞いてみた。「終業式で校長の話というのがあるんだけど、今のような話をしてくれない」「それはいいです」軽く断られた。半分は本気での打診であった。彼の話は全校生に紹介したいところだが、自衛隊を出したところでＧ君のことだとわかってしまうだろう。残念ながらあきらめることにする。

本校では、２年生が１月にインターンシップを行う。Ｇ君もインターンシップに行く。彼が行くのは、もちろん自衛隊郡山駐屯地である。夢に向かっての第１章である。Ｇ君、がんばれ。心から応援している。そして夢を叶えてくれ。君の夢は多くの人を救うことになる。人のために生きる。こんな素敵な人生はない。